8社生GAP第1号
令和8年10月26日

一般社団法人日本雑草学会　御中

一般社団法人日本生産者GAP協会
理事長　田上隆一
（発行責任者）

「2026年度　GAPシンポジウム」への参加及び周知について（依頼）

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、「2026年度　GAPシンポジウム」を下記の通り開催いたします。本年度は「GAPが求める健全な土づくり」をテーマに、Soil Health（土壌の健康）の考え方を手がかりとして、環境保全・食品安全・農場経営をつなぐ土づくりのあり方について議論いたします。

つきましては、ご関係の皆様のご参加を賜りますとともに、会員・関係者の皆様へのご周知（会報、メールマガジン、ホームページへの掲載等）にご協力いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

記

名　称：2026年度　GAPシンポジウム
テーマ：『GAPが求める健全な土づくり』
　　― 環境保全・食品安全・農場経営をつなぐ Soil Health ―
日　時：2027年2月1日（月）13時～17時、2日（火）9時30分～17時
会　場：東京大学農学部 フードサイエンス棟 中島董一郎記念ホール
　　（東京都文京区弥生1-1-1）およびオンライン（zoomウェビナー）
　　※申込者限定で講演動画を後日ストリーミング配信
主　催：一般社団法人日本生産者GAP協会
共　催：特定非営利活動法人経済人コー円卓会議日本委員会、株式会社つくば分析センター、
　　一般社団法人農業情報学会、一般社団法人GAP普及推進機構、
　　一般社団法人沖縄トランスフォーメーション（沖縄DX）
後　援：一般社団法人全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会
事務局：一般社団法人日本生産者GAP協会 教育・広報委員会、株式会社AGIC 大会事務局
HP：https://fagap.or.jp/seminarsymposium/symp2026/

以上

大会事務局　一般社団法人日本生産者GAP協会　事務局　田上隆多（担当者）
〒305-0035　茨城県つくば市松代3-4-3　A402
E-mail:mj@fagap.or.jp　TEL:029-861-4900　FAX:029-856-0024
https://fagap.or.jp/（一般社団法人日本生産者GAP協会HP）

2026 年度 GAP シンポジウム

【開催概要】

名称	2026 年度 GAP シンポジウム
テーマ	GAP が求める健全な土づくり ― 環境保全・食品安全・農場経営をつなぐ Soil Health ―
日時	2027 年2月1日(月) 13:00～17:00 ／ 2日(火) 9:30～17:00
会場	〔会場〕東京大学農学部 フードサイエンス棟 中島董一郎記念ホール(東京都文京区弥生 1-1-1) 〔オンライン〕zoomウェビナー ※申込者限定で講演動画を後日ストリーミング配信
参加費	個人： 一般 12,000 円／主催・共催の職員・会員、後援の職員(*1) 9,000 円／大学生 1,500 円 高校生 無料 *1 県域団体(全農県本部、経済連、各県中央会)を含む 授業枠(農学系大学・専修学校・農業高校の授業として聴講)： 12,000 円 ※講演資料は PDF ファイル等での配布(ダウンロード)
情報交流会	2027 年 2 月 1 日(月)17:30～19:30 (シンポジウム参加とは別に申込要) 東京大学農学部フードサイエンス棟 1階 cafe agri 101 参加費: 5,500円
主催	一般社団法人日本生産者 GAP 協会
共催	特定非営利活動法人経済人コー円卓会議日本委員会／株式会社つくば分析センター 一般社団法人農業情報学会／一般社団法人 GAP 普及推進機構 一般社団法人沖縄トランスフォーメーション(沖縄 DX)
後援	一般社団法人全国農業協同組合中央会／全国農業協同組合連合会
事務局	一般社団法人日本生産者 GAP 協会 教育・広報委員会、株式会社 AGIC 大会事務局
HP	https://fagap.or.jp/seminarsymposium/symp2026/index.html

【開催趣旨】

GAP は、生産性の向上だけを追求するのではなく、農業生産に伴う環境への影響を適切に管理し、生産性と健全性を両立する適切な農業実践を目指す考え方です。土づくりについても、地力や作物生産性の確保に加え、環境負荷、土壌の物理性・生物性、気候変動への対応、投入コスト、収量・品質の安定、食品安全に関係するリスク管理、取引先や社会への説明まで含めて捉えることが求められます。

日本生産者 GAP 協会では、2023 年度 GAP シンポジウム「グリーンな栽培体系と国際水準 GAP」において、『実践ガイド 生態学的土づくり』を手がかりに、生態学的な土壌管理と持続可能な農業について議論しました。今回のシンポジウムは、その議論をさらに一歩進めるものです。Soil Health(土壌の健康)の考え方を手がかりに、「地域・農場にとって健全な土とはどのような状態なのか」を考えます。

重要なのは、特定の農法や資材を一律に「良い」とすることではありません。土壌、気候、作物、地形、機械体系、経営条件など、それぞれの地域・農場の状況やリスクを把握した上で、目指す成果(アウトカム)を定め、必要な指標を確認し、適切なグッドプラクティスを選び、記録・改善・説明につなげていくことです。

「何を実施したか」だけではなく、「何を目指して、その管理を行い、その結果をどう確認するのか」。GAP を起点として、環境保全・食品安全・農場経営を同時に支える「健全な土づくり」のあり方を考える 2 日間とします。

【こんな方におすすめです】

農業者・農業法人の方へ
土づくりを、収量や品質だけでなく、肥料・農薬などの投入コスト、気象リスク、作業性、経営の安定まで含めて考えるヒントが得られます。
普及指導員・営農指導員・JA の方へ
土壌診断の数値だけに頼らず、農場の観察や記録と組み合わせながら、それぞれの農場に合った改善を支援する考え方を整理できます。
研究者・技術提供者の方へ
土壌の化学性・物理性・生物性や測定技術を、農業現場の判断や改善にどう結びつけるかを、実践事例とともに考える機会になります。
行政・政策関係者の方へ
海外の Soil Health 政策や農業環境政策の動向も踏まえながら、農業者の取組を支える制度や支援のあり方を考える材料が得られます。
食品・流通・小売の方へ
生産現場の土づくりの取組を、持続可能な調達、環境価値、商品の説明、取引先や消費者とのコミュニケーションにどうつなげられるかを考えます。
教育・研修に携わる方へ
Soil Health と GAP を、単なる技術や基準ではなく、「持続可能な農業をどう考えるか」を学ぶための教材・指導の枠組みとして捉えるヒントが得られます。

【プログラム(案)】

1 日目　2 月 1 日(月)

13:00～13:10	開会・事務連絡
13:10～13:40	**開会挨拶・基調講演** 「世界の GAP ステージ3」と健全な土づくり —GAP は環境負荷低減型農業から環境再生型農業へ、目標はゼロからプラスへ
13:40～14:20	**講演 1(科学的根拠)** Soil Health とは何か。土壌の化学性・物理性・生物性、土壌機能、自然資本としての役割を整理する。
14:20～15:00	**講演 2(世界の動向／政策・制度)** Soil Health、持続可能な土壌管理、環境再生型農業等をめぐる世界の政策・制度を整理し、農場の管理・測定・評価・支援へ接続する制度設計から日本への示唆を得る。
15:00～15:40	**講演 3(社会・市場・制度・説明可能性)** 健全な土づくりを、農場・技術側だけでなく、食品企業、流通・小売、行政・制度を含むサプライチェーン全体でどう支えるかを扱う。調達基準、評価・見える化、支援・インセンティブ、取引先・消費者への説明等を取り上げる。
15:40～16:00	休憩・質問投稿
16:00～17:00	**総合討論　テーマ(案)「健全な土づくりを、GAP・政策・市場からどう支えるか」** 健全な土づくりを農場内部の技術課題だけでなく、持続的生産を支える社会的な仕組みとしてどのように位置づけるかを議論する。
17:30～19:30	**情報交換会** 登壇者、参加者の交流

2日目 2月2日(火)

9:30～9:40	2日目開始・事務連絡
	現場事例 地域・農場の条件や課題を踏まえた土壌管理・栽培管理の実践を紹介する。可能な範囲で、土壌状態、収量・品質、環境負荷、作業性、コスト等の変化や、その確認・評価についても扱う。
9:40～10:20	**現場事例 1(水田等)** 水管理、有機物循環、生物多様性、メタン排出、土壌・水系への影響、収量・品質等。
10:20～11:00	**現場事例 2(畑作等)** 耕起体系、排水、被覆、輪作、適正施肥、病害虫・雑草管理、作業性・収量安定等。
11:00～11:15	休憩
11:15～11:55	**現場事例 3(果樹等)** 草生・被覆管理、有機物管理、土壌物理性、水分管理、傾斜地・侵食対策、病害虫・雑草管理、品質・樹勢・作業性等。
11:55～13:00	昼休み
13:00～13:45	**技術・測定 1(土壌診断・評価)** 土壌診断を、施肥、有機物管理等の実際の土壌管理にどのように生かすかを扱う。診断結果の読み方や、地域・農場の条件に応じた管理判断への活用を考える。
13:45～14:30	**技術・測定 2(土壌生物性・MRV 等)** 土壌生物性を把握・評価する新たな技術や研究を取り上げ、化学性・物理性を含めた土壌状態の評価や、土壌環境・栽培管理への活用可能性を考える。
14:30～15:00	休憩・質問投稿
15:00～16:30	**総合討論　テーマ(案)「地域・農場に応じた『健全な土づくり』をどう組み立てるか」** 地域・農場の条件に応じて、どのような土壌状態を目指し、どのような管理を選択し、その効果をどのように確認していくかを議論する。
16:30～17:00	総括・クロージング シンポジウムの成果を、今後の研修・評価・出版・情報発信等の協会事業へ接続する。

※現時点での講演テーマ・構成の予定です。登壇者、講演順、講演時間等は今後の調整により変更する場合があります。

必要事項を記載して、この用紙で FAXしていただくか、ファイルを email(宛先　mj@fagap.or.jp)でお送りください。
参加費(資料代)は、主催・共催会員・後援職員 9,000円(税込)、一般 12,000円(税込)、学生 1,500円(税込)、高校生(無料)です。
必要書類などを郵送いたします。会場参加は 1月25 日まで、オンライン参加は 1月27日 17:00 まで事前受付しております。

2026年度GAPシンポジウム　参加申込書

Fax 029-856-0024　事務局行き

該当する□に✓印をおつけください。●印の項目は、必ずご記入いただけますようお願いいたします。

●ふりがな		●TEL		FAX	
●氏名		●email			
●所属名					
部署名		役職名			
●所在地	〒				

●職業	□ 農業個人　□ 生産団体　□ JA　□ JAグループ　□ 普及指導 □ 国行政　□ 都道府県行政　□ 市町村行政　□ 試験研究(農業試験場、研究所など) □ 審査・認証　□ サービス・コンサルティング　□ 食品流通　□ 食品製造 □ 検査・分析　□ 農業資材・機械　□ IT関連　□ その他(　　) □ 高校・大学・農業大学校関係者　□ 学生(高校・大学・農業大学校など)　□ 報道
●参加方法	□ 当日会場 (東京大学中島董一郎記念ホール) ●情報交換会(参加費￥5,500) (1日目終了後会場内で行います) □参加希望　□参加しない □ オンライン
●会員種別	□ 一般(12,000円)　□ 学生(1,500円)　□ 高校生(無料) □ (一社)日本生産者 GAP 協会会員 (9,000円)　□ 農業情報学会会員 (9,000円) □ (一社)GAP 普及推進機構会員 (9,000円)　□ 経済人コー円卓会議日本委員会会員 (9,000円) □ 株式会社つくば分析センター (9,000円) □ 全国農業協同組合連合会職員 (9,000円)　□ (一社)全国農業協同組合中央会職員 (9,000円) ※　団体として、農学系大学・専修学校・農業高校の授業として聴講される場合は、専用の参加申込書をご用意しております。

必要書類についてご記入ください。**請求書は全員に発行致します。**

●見積書　無□／有□	●納品書　無□／有□	●請求日　　年　　月　　日

●宛名	
●但書	※ご指定のない場合は「2026年度GAPシンポジウム参加費」となります。

通信欄　その他連絡事項がございましたらご記入ください。

●参加料の支払い方法について、いずれかにチェックをして下さい。　□ 事前振込　□ 開催後振込

◆これを機に一般社団法人日本生産者GAP協会の会員になりませんか。会員価格で参加できます。

(会員特典:①GAP 普及ニュース　②GAP 相談サービス　③シンポジウム、セミナーの優待)
一般社団法人日本生産者 GAP 協会利用会員に加入いたします。→(加入する会員種別にチェックを入れてください)

□ 利用会員個人年会費　10,000 円
□ 利用会員団体年会費(企業、農協、生産組合などの団体)　20,000円
□ 賛助会員年会費(個人、法人、組合などの団体)　一口　30,000 円(　　)口

2026年度GAPシンポジウム　https://fagap.or.jp/seminarsymposium/symp2026/
一般社団法人日本生産者GAP協会のホームページ　https://fagap.or.jp/
〒305-0035　茨城県つくば市松代 3-4-3 A402　TEL:029-861-4900　FAX:029-856-0024

※開催日の約1ヵ月前にシンポジウム(zoomウェビナー)URL および資料ダウンロード URL をご案内します。URLご案内後の参加キャンセルは致しかねますので予めご了承ください。なお、当日参加できなかった場合は、各講演のビデオストリーミング配信をご利用ください。